

平成 23 年 11 月 23 日（日）

## 安曇野探訪 ～川向先生と安曇野を歩く～

安曇野の現状からまちづくりのヒントをいただこうと、小布施町役場の中に大学の研究所を構え、長年小布施のまちづくりに取組まれている東京理科大 川向正人先生と安曇野探訪を行いました。

川向先生との繋がりとは、青年・女性委員会で今年 6 月に松本で開催した関ブロ長野大会に基調講演の講師、分科会、エクスカージョンと参加して頂きました。

その縁もあり、先日小布施で行われた研究所の活動報告会を兼ねた小布施シンポジウムに建築士会として招かれ、そこで「安曇野を見てみたい」と言う先生の想いから今回の安曇野探訪が実現しました。



見学コースは、午前・午後に分け、午前コースは穂高支所～穂高神社～穂高駅～礪山美術館～商店街のコース。午後は、ビレッジ安曇野～万水川沿いの土手道～三角島～湧水群～重柳の屋敷林地区のコース。

ガイドは、観光案内ガイドも行っている高松さん等々力さんにお願ひし、午前コースがスタートしました。

観光拠点である穂高神社は集客があるが、周辺を歩いたりすることが無く、駅前の活性化が問題との説明がありました。安曇野スタイルショップなど山麓沿いの木工作家さんたちと街中を繋げられればとの意見もありました。

大糸線路沿いを通って礪山美術館へ。初めて通る方も多く、線路の近さや道の持つ雰囲気の魅力を感じます。

穂高駅～礪山美術館までの歩道は整備されているものの、その歩道から分かれる歩道の整備がなされていない、もったいないなどの意見も出ていました。



穂高商店街では、丸山菓子の社長さんに商店街の現状と今後どうしていきたいかという熱い思いを聞かせていただきました。

商店街は、広い歩道が無く、また駐車場が無いことから商店街を通る旧道が、バイパスの裏道として通貨目的の利用になってしまっていました。商店もバイパス沿いへ移転し空き店舗も目立ちます。一方、古くからの町屋の建物も多数残されており、中には大規模に再生工事のお宅もありました。裏路地を入ると歴史的貴重な御堂があったり、昔からの店舗もいい雰囲気を個もし出しています。

私自身も初めて歩いて回ったのですが、車で通過するだけでは分からない魅力がたくさんあり、歩かなければわからない魅力を感じました。

歩いてもらうためにどうするか？車道と歩道と店舗のバランスがカギを握っていそうです。



午後は、ビレッジ安曇野から万水川沿いの土手を散策しました。この道も初めて歩く道でした。北アルプス、白馬連山が川越しに綺麗に見え、最高のビューポイントです。

途中、吉永小百合さん撮影場所などと言う場所もあり（看板がイマイチでしたが・・・）西にアルプス・東にわさび田と言う素晴らしい散策ルートだと感じました。

土手沿いを歩き、三角島へ。

三角島とは、蓼川と万水川とで挟まれた中洲のような所で、自生した植物や湧水など、手つかずの自然が残る貴重な場所です。2009年から保全プロジェクトが立ち上がり、保全に向けて動き始めています。年間200万人が訪れると言われる大王わさび農園の映画でも有名になった水車を対岸から望む事が出来ます。



最後に廻ったのは、湧水公園から重柳地区の屋敷林・本棟造り住宅地区です。

安曇野に住んでいると、屋敷林や本棟造りは良く目にする光景ですが、同じ地区内に集中してこれだけの棟数がある場所は初めて見ました。

この地区を歩いて回るだけでも、価値がある、その位場の持つ雰囲気が良かったです。

最後に、川向先生から色々なメッセージをもらいました。

魅力的な場所が点在している安曇野を、いかに繋げるか。点と点を繋いで線となり、線で囲われた面となれば安曇野も変わって行くのではないかと思います。商店街などの再生も、過去に固執するのではなく取組んでいくことが重要で、それには住民との信頼関係や、最終的には人の力が無いと何もできないと思います。

今回の体験をきっかけに、建築士として何が出来るのかを再考し動き出したいと思います。